

優先すべき候補地について (たたき台)

第3回 特定複合観光施設（I R）に関する有識者懇談会

平成30年10月17日

北海道経済部観光局

1. 優先すべき候補地検討の着眼点

- 北海道に I R を誘致する場合における優先すべき候補地は、
 - 「日本型 I R に求められる要件」を満たし、
 - 「IR事業者の関心度」が高く、
 - 「北海道に相応しい I R の機能・施設」が実現出来る可能性がより高い区域 であることが求められる。

北海道に導入する場合における優先すべき候補地検討の着眼点

1 日本型 I R に求められる要件

① 施設の定義及び基準

- 設置が義務付けられている国際会議場は、我が国を代表することとなる規模 等

② 区域整備計画の認定基準

- 国内外の主要都市との交通の利便性(国際空港・港湾の立地状況等) が重要な要素
- IRの実現により大きな経済効果が見込まれることが必要 等

③ I R 区域の土地利用

- 民間事業者の公正・公平な選定の観点から、当該土地の利活用についてオープンアクセスが確保されていることが必要 等

2 I R 事業者の関心度・その他

- IR誘致を表明した場合に実施する事業者公募に向けて、当該地域に高い関心を持ち、具体的な事業計画等の検討を進めているIR事業者の存在が必要 等
- I R 誘致に関する地元の反応 等

3 北海道に相応しい I R の機能・施設

① MICE施設

- 宿泊施設やアミューズメント施設等との一体的整備を図り、これまでにないオールインワンの高付加価値型サービスを提供
- M・I・C・Eそれぞれの分野に応じた多機能型の施設整備を指向 等

② 宿泊施設

- 日本を代表するハイグレードなホテルを中核に、利用者の幅広いニーズに対応できるバラエティに富んだ宿泊施設を整備
- 北海道らしい自然志向の滞在生活が体験できる施設を併設 等

③ ショーケース機能（魅力増進施設）

- 北海道をまるごと体感できるクオリティの高い機能・施設を常設
- 「本物」「本場」を味わうことのできるオプションツアーの提供
- ナイトエンターテインメントを充実 等

④ ゲートウェイ機能（送客機能施設）

- I R への訪問客を道内各地の観光地に送り込む機能をハード・ソフトの両面から整備
- 利便性の高い二次交通システムを整備 等

2. 日本型IRに求められる要件

- ・ 会議場・展示場等の規模、交通の利便性、経済効果の点では、苫小牧市が有利。
- ・ 土地の利活用に係るオープンアクセスの確保については、いずれも所有者との協議が必要であるが、苫小牧市では市が譲渡を受ける方向で検討。

日本型 I Rに求められる要件 (再掲)	釧路市	苫小牧市	留寿都村
① 施設の定義及び基準 <ul style="list-style-type: none"> ・ 設置が義務付けられている国際会議場は、我が国を代表することとなる規模 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ MICE施設については、M (Meeting) と I (Incentive) に重点を置いたコンパクトなものを想定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3万～5万㎡の展示場、5,000人規模の国際会議場を整備可能との事業者提案あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存のMICE機能は2,300人、約3,000㎡。 ・ 最大で約2万5千㎡の拡張を想定。
② 区域整備計画の認定基準 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外の主要都市との交通の利便性 (国際空港・港湾の立地状況等) が重要な要素 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ IRの実現により大きな経済効果が見込まれることが必要 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 釧路空港から車で約60分 ・ シャトルバスや乗り合いタクシー等、釧路空港からの二次交通整備が新たに必要 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道による需要予測調査等 IR売上高 504億円 税収効果 80億円 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新千歳空港から車で約15分。 ・ 新たな道路の敷設や公共交通機関の整備を含めて利便性の向上を検討。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道による需要予測調査等 IR売上高 1,562億円 税収効果 234億円 ・ 開業時投資額 (RFC) 2,800～3,800億円 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新千歳空港から車で約90分。 ・ 地元事業者が滑走路2,000m級のプライベート空港の建設を計画。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道による需要予測調査等 IR売上高 840億円 税収効果 129億円 ・ 開業時投資額(RFC) 1,700億円
③ I R区域の土地利用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間事業者の公正・公平な選定の観点から、当該土地の利活用についてオープンアクセスが確保されていることが必要 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所有者：一般財団法人・国 ・ 財団法人所有の土地については、所有に係る法的位置づけの整理が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所有者：民間企業(1者) ・ 民間企業所有の土地を市が譲渡を受ける方向で検討を進めているところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所有者：民間企業(1者) ・ 所有者の民間企業と協議を進めていく予定。

※ 青字は第2回 I Rに関する有識者懇談会での質疑応答から事務局にて要約したもの

3. IR事業者の関心度・その他

- ・ 苫小牧市は関心を示す I R 事業者が多く、具体的な提案に至っている事業者も複数あり。
- ・ 釧路市・留寿都村では明確な反対運動等はない。
- ・ 苫小牧市はセミナーや出前講座を複数回開催し、丁寧に住民説明を行っている。

項目	釧路市	苫小牧市	留寿都村
IR事業者の関心度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道への事業提案数 (RFC) — 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道への事業提案数 (RFC) 8社 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道への事業提案数 (RFC) 1社
	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで約10社と接触し、約5社は現地視察に来訪。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市でも投資意向調査を実施し、15社から事業提案あり。 ・ そのうち6社から具体的な事業提案を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで6社程度の接触あり。
地元の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 反対運動は起きていないが、市政懇談会にてギャンブル依存症を心配する声も上がった。 ・ 生活支援に関する先進的な取組を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ セミナーや出前講座などを開催し、延べ900名の市民が参加。 ・ 市民団体から約11,000筆の誘致反対の署名提出あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村政懇談会にてIR誘致への理解を深めている。 ・ 直接的な反対の声はない。

※ 青字は第2回 I Rに関する有識者懇談会での質疑応答から事務局にて要約したもの

4. 北海道に相応しいIRの機能・施設

・ 3地域共に、「北海道に相応しいIRの機能・施設」に配慮したIR施設を整備できる可能あり

北海道に相応しいIRの機能・施設		釧路市	苫小牧市	留寿都村
① MICE施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊・アミューズメント施設との一体的整備 ● 多機能型の施設整備 ● 北海道全体のMICE誘致戦略の中核となる施設 	<ul style="list-style-type: none"> ● M (Meeting) とI (Incentive) に重点を置いたコンパクトなものを想定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際空港に隣接した立地を活かし、国際会議誘致を推進 ● 小から大規模会議等にまで柔軟に対応可能 ● 3万～5万㎡の展示場、5,000人規模の国際会議場を整備可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存のMICE機能は2,300人、約3,000㎡。最大で約2万5千㎡の拡張を想定 ● 各種学会や会議等の開催実績あり
② 宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本を代表するハイグレードホテル ● 利用者の幅広いニーズに対応できる宿泊施設 ● 北海道らしい自然志向の滞在施設 	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期滞在の拠点となり得る施設 ● 200室程度のハイグレードホテルを想定 ● 主に富裕層をターゲットとした自然と調和した客室 	<ul style="list-style-type: none"> ● VIPや長期滞在者、一般層など多様なニーズに対応 ● 1,000～2,000室想定 ● 自然体験とセットとなったグランピング施設 	<ul style="list-style-type: none"> ● リゾート全体で1,300室を想定 ● 建築及び内装は、縄文文化やアイヌ文化からのインスピレーションも考慮
③ ショーケース機能 (魅力増進施設)	<ul style="list-style-type: none"> ● 北海道をまるごと体感できる質の高い機能・施設 ● オプショナルツアーの提供 ● VR等の先端技術を活用 ● ナイトエンターテインメントの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● エンターテインメント要素を持ったアイヌ文化の紹介 ● 阿寒湖温泉周辺などの自然に触れる体験観光の機会を提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● ものづくり企業が集積する地域特性を活かした「イノベーションリゾート」 ● 自然体験の入門コンテンツを提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の特産品のショッピング施設 ● アイヌ文化をテーマとしたプロジェクションマッピング
④ ゲートウェイ機能 (送客機能施設)	<ul style="list-style-type: none"> ● 道内各地に観光客を送り込む機能をハード・ソフト両面から整備 ● 多様な客層に応じた二次交通システム ● コンシェルジュ機能の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ひがし北海道」全体の観光資源との連携 ● 二次交通のアクセスルート整備 ● LCCの乗客の追跡調査を通じ、二次交通のあり方検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新千歳空港を活用し、ダイレクトインバウンドの道内・道外への送客を推進 ● 訪問客のデータからAIで最適の旅行プランを提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地元民間企業が計画しているプライベート空港と、道内空港との連携 ● 観光情報発信施設

※ 青字は第2回IRに関する有識者懇談会での質疑応答から事務局にて要約したもの

5. 優先すべき候補地のまとめ(事務局案)

1 日本型 I Rに求められる要件

- ① 施設の定義及び基準
- ② 区域整備計画の認定基準
- ③ I R区域の土地利用

- ① 我が国を代表する規模の国際会議場の整備
 - ② 国内外の主要都市との交通の利便性（国際空港・港湾の立地状況等）
 - ③ 公平・公正の観点から当該土地の利用についてのオープンアクセスの確保
- 等を総合的に勘案し、候補地を絞り込み

2 I R事業者の関心度・その他

- ① I R事業者の関心度
- ② I R誘致に関する地元の反応

- ① 道のR F Cでも最多の8社の提案があり、また市が実施した投資意向調査でも15社から提案があるなど、苫小牧市は事業者の関心度が最も高い。
- ② 苫小牧市では複数回にわたり様々な形で住民説明を実施。留寿都村では、反対の声はほとんどない

3 北海道に相応しい I Rの機能・施設

- ① MICE施設
- ② 宿泊施設
- ③ ショーケース機能（魅力増進施設）
- ④ ゲートウェイ機能（送客機能施設）

3地域共に「北海道に相応しい I Rの機能・施設（①～④）」に配慮した I R施設を整備できる可能性あり

4 地域間の連携

- ・ 釧路市と苫小牧市は、北海道広域観光連携の実現に向けた両地域の連携に係る確認書を締結し、北海道IR実現に向けた連携や周遊観光促進の協力を確認
- ・ 留寿都村も、今後、地域連携が必要になってくるとの認識